

# 彼方「かなた」

校長通信  
H25.10.9  
Vol.19

## 【失敗に学ぶ】

進路に関わる数々の失敗例が毎年のように報告されます。そのことを元に例年同じような指導なされます。ところが、なぜか同じような失敗が繰り返されます。「先輩の失敗は自分ではない」という人ごとのように捉えているのがその原因と考えます。「人のふり見て我がふり直せ！」という昔からの教えを今から本当に意識し、先輩方が教えてくれた失敗を糧とし、同じ轍を踏まないよう三年生一人一人が、この瞬間からできることを考え、取り組んでいかなければなりません。

### 【失敗例】

- 高校訪問に行った際、服装や言動がだらしく、「君は本校を受けても合格できないよ！」と言われて帰ってきた。その後、本人は希望校を変更した。
- 書類手続きの不備や提出期限に間に合わず、受験できなかった。
- 事前に私立の推薦制度を説明されたが、自分には関係ないと聞き流し、十分理解しないままでの取り寄せる書類や手続きを間違えた。最終的には一般受験となり、不合格になってしまった。
- 二つの高校を同時に第一希望と考えたために試験日を間違えたり、試験日が重なったりしたため、精神的に動揺し、うまくいかなくなってしまう。
- 試験会場に時間までに着けずに遅刻した。気持ち

が動転し、実力が発揮できなかった。(入試まで高校訪問を一回もしていなかった)

○一週間前に友達と悪ふざけをしていたため利き手を骨折し、当日は、特別受験となり、実力が発揮できなかった。

○服装(シャツ出し、学生服の下にジャージ着用等)・茶髪(外見、ピアスの後)等がいい加減で面接で落とされてしまった。

○受験終了後駅で買い食いし、高校の先生に注意を受ける。その時の態度が悪かったため、さらに高校に戻され、別室指導を受ける。結果は不合格となり、進路変更となった。

○入試中に携帯が鳴り、別室指導を受ける。(面接待ちのメール打ちも同様)

○面接で全く受け答えができず、不合格となる。

(本当に入学したいという意思表示ができなかった。本人は別の学校に入りたかったが親に「受ける」と言われ受験したため。)

○試験中に机にうつ伏せて、寝てしまい、監督の先生に注意を受け、別室指導を受ける。面接の評価が下がり、不合格となる。

○面接で調査書記載事項と違った答えをしてしまい問い合わせられた。(欠席日数や遅刻の回数がある覚えだったため)

○解答用紙の字が汚く、判読されずに×になった。

○持ち物(受験票、コンパス、分度器、弁当等)を忘れたために落ち着いて試験に臨めず、力を発揮できなかった。(受験票を柵に上げたままにし、当日持って行くのを忘れてしまった。)

○休み時間に友達同士で中学校にいるときのよう廊下やトイレで騒いでいたため面接の評価がさがり、不合格となった。

○事前の高校訪問や文化祭等に参加した際の態度が悪くて、事前にチェックされ、面接で厳しい質問を受け、不合格となった。

○マークシートの記入方法が分からず点数がとれなかった。

○体調管理が不十分で当日39℃の発熱状態で受験し、力を出せず不合格となった。

○合格後の書類手続きに行かず、合格取り消し通知が届いてしまった。

### 【成功例】

○学級全員で家庭学習の時間を累計し、一ヶ月四千時間になるように取り組み、成果をあげた。

○学級で友達と面接練習し、雰囲気盛り上げた。

○自分の長所が言えるように友達と「いいところ探し」をした。

○授業中に分からなかったところを放課後先生に聞き、学習会が始まった。

○前期試験で不合格になった仲間のために放課後毎日残って勉強会をした。

○日頃から声を掛け合い、生活面や学習面の改善を図り、「全員合格」を目標に掲げ、ワンデーワンページ(実際にはワンデイスリーページ)に取り組んだ。

山をひとつ越えるためには、みんなで力を合わせて取り組まねばなりません。進路実現は個々の問題ですが、個人戦では戦いきれません。**団体戦です!**